

浜田市議会議長 原田義則様

議員名 野藤 薫



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成27年5月11日(月)～5月12日(火)
2. 視察先と内容
  - ① 安芸高田市 川根振興協議会の取組みについて  
「行政に頼らないコミュニティづくり」  
講師 辻駒健二会長
  - ② 門前湯治村 神楽ドーム視察  
(安芸高田市) 説明 山根孝浩安芸高田市政策企画課まちづくり支援係長
  - ③ 邑南町 誰もが幸せになれるまちー攻めと守りの定住プロジェクト  
「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」  
講師 石橋良治邑南町長  
田村哲邑南町定住促進課課長補佐  
口羽正彦商工観光課課長補佐
3. 参加者 原田義則 牛尾博美 渋谷幹雄 西田清久 道下文男 飛野弘二  
上野茂 野藤薫 串崎利行
4. 調査経費 12,753円
5. 調査研究活動の概要 別紙



## 安芸高田市

### 川根振興協議会の取組みについて

- 1972年の江の川の氾濫（地域の衰退）→自分達は地域でどの様に生るのか？ どうして行くのか？
- 2,198人が500人に→住民自治意識（危機感から）の向上
- 農業が基幹産業—農地を守る
- 道路整備の遅れ→同じように税金を納めているのに、何故地域格差が有るの？……自分たちが選んだ市長や議員なのに？
- 小学校の統合→地域から学校がなくなると、地域の夢を語れなくなる
- 1982年、「農地を守る会」を立ち上げ土地改良→80haを5年で実施
  - A意見⇔負担金を出してまで土地に金をかけて何になる。とか
  - B意見⇔わしのところから、先にやってくれ。など
- 補助金の1800万円は個人に配らず、法人の運営資金に→独裁者と言われた
- 個人のエゴに任せたら、何にもできない
- 広島市からUターン、これも地域のご縁のおかげ
- 親の世話（介護）のために、38年前に戻ってきた
- 行政のやれることには、限度がある→行政がやることと、地域がやることの仕分け
- 道路改良（拡幅）→各自が1m50cm提供
- 草刈、道路管理は自分たちがする
- 学校を、4億円かけて改修→「川根ミュージアム」
- 地域住民の声を行政がいかに取り入れるか
  - 要求から提案のまちづくりへ
- 若者定住の住宅建設へ→23戸建設
- 地域から学校を無くさないという決意が必要だ
- 安芸高田市も合併し支所に権限と予算が無い行政からの支援など難しさがある
- 就労した若者農業者→野菜果物栽培の本には、草が生えることが書いてない！（現実とギャップ）
- ガソリンスタンドとストアの撤退→一戸千円当り集めて(260戸)自分たちで再開
- 竹の貯金箱「一日一円募金」を各戸で実施、給食サービスも
  - 予想以上に運営資金が集まる
- 地域で「もやい便」を実施→市内全域は片道500円
- 毎朝カーテンを開けるなどの取組（元気なサイン）→地域の人たちが顔を覗かせる
- 香典返し→川根振興会へ（活動費に）・宴会部長（助け合いの醸成を）が必要
- 住民自治意識（お互い様）は高齢者の方が高い→みんなでお金を出す



川根ミュージアムのホールで、  
辻駒会長から、説明を受ける

### 【所感】

必要に迫られ実行してきた事が、今の川根地区の現状だ。地域の結びつきが強いのも成功の要因。

三十数年の辻駒会長のリーダーシップも有る。

都会で暮らす事、田舎で暮らす事のどちらが幸福感が有るのか、子育て世代などに情報発信して、地域の活性化や定住につながっていると思う。

また、宿泊や食堂などで雇用も生んでおり、地域のお母さん方の収入になっていた。自ら出来る事は自らでやる、という事は見習うべきである。

## 門前湯治村視察(安芸高田市)

- 門前湯治村総事業費40億円
- 神楽ドーム建設費8億円  
委託費→年間4000万円  
金土日、年間150日神楽上演  
チケット収入→社中と管理会社で折半  
入場者一日平均500人



テント張りの神楽ドーム、前側畳敷き  
2畳の棧敷席になる。後列は椅子席

### 【所感】

旧 美登里町の事業だと聞いたが、突如山の中に建物やドームが現れた感でした。

温泉と神楽をテーマに、昭和をイメージした作りマスコミでも随分取り上げられ、初めて行ったがどこか懐かしい雰囲気でした。

平日の午後からの視察でしたが、温泉の入浴客は有りました。湯治村と言う事で自炊宿泊の出来る旅籠(?)も三軒有りますが、週末中心の集客のようです。

神楽も週末の上演です。

石見神楽も素晴らしいと、持上げて頂きましたが交通の利便性から言うと、厳しい場所の様に思えますが、温泉、神楽資料館、昭和の街並み等の、施設配置により、観光客には楽しめると思います。

浜田市も神楽の施設整備は必要だと思うが、施設規模や初期投資額、ランニングコスト、運営主体など、課題が多いと感じた。



門前湯治村で、説明を聞く



門前湯治村入り口で記念撮影  
(カメラマン渋谷)

## 邑南町

誰もが幸せになれるまち→攻めと守りの定住プロジェクト

「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」



- 邑南町の人口→11,500人、面積→420平方キロ、世帯数→5000世帯、高齢化率→41.9%、島根県中央部にあり盆地の多い地形
- 一般会計の予算規模130億円→交付税50%以上、教育費11億円→毎年増やしている
- まちづくりの基本理念→住民が主役→まちづくり基本条例の制定  
周辺を大切に→216集落、39自治会、自治会担当職員配置
- 自立を促す→公民館設置・職員3人体制(正規職員1名)→地域に出かけて行く
- 合併後の一体感→ケーブルテレビの活用(加入率96%)
- 若手職員による地域のカルテづくり→地域の課題と人口分析
- 出羽地域の取組み→「出羽夢づくりプラン」策定→「日々の生活は足りているが、足りないのは希望」との声を受けて→課題の解決と夢の実現に向けて→「LLC出羽」法人設立  
地域通貨と人材バンク(農地保全・除雪作業・空き家対策)
- 町民の生活満足度調査→84%が満足(全国平均64%)子育て支援充実・学校教育充実・高齢者障害者福祉充実・下水道普及率91%・☆食べ物おいしい85%
- 人口減少の右肩下がりを緩やかにする→2045年に900自治体が消える(増田レポート)  
2015年の推計値11,031人⇔現実、11,487人
- 邑南町の人口動態→社会動態H25年+20人、H26年+13人(浜田マイナス326人)
- 攻めのA級グルメ構想と、守りの日本一の子育て村、徹底した移住者ケア
- 町民に誇りを持ってもらうことが大事
- 今いる人も大切に「誰もが主役」・・・日本一の子育て村構想へ  
0~18歳人口の増加と定住→H33年の目標1800人(100人増)  
邑南町は、過疎債をソフト事業に充当できるように陳情  
→特別枠分1億8千2百万円全額消化する必要がある

→過疎ソフトで思い切った戦略を→関係課召集  
→保育料の無料化と「日本一の母子保健事業」→中学生までの医療費無料

- 身近で安心な医療体制の構築→公立邑智病院（医師10人体制、24時間緊急受付産婦人科、小児科機能の充実、専門医の常勤、ドクターヘリ）
- 待機児童ゼロ、9ヶ所の保育所は統合しない  
→園児4人でも、園長、保育士、調理師の体制維持
- 過疎債を使って、一般財源の支出を振替え
- 日本一子育て村基金→10年後にツケをまわさないために積み立てを行う
- 日本一の子育て村を目指すにあたり、町民が一丸となって子育てに対する取り組みを進めて行くことが大事→地域で子育て、未来を創る→みんなが笑顔で暮らせるまち  
行政無線で赤ちゃんの誕生を、みんなに知らせる
- 地域おこし協力隊31人→耕すシェフ、アグリ女子隊、地域クリエイター、アクサホ隊
- 数値目標設置一定住人口200人確保→213人、観光入込客数100万人→92万人、食と農の5名の起業家→27人に
- 食の学校→調理学校との連携
- 保育料2子目から無料、保育所完全給食、病児保育、延長保育
- 公民館の充実・地域学校・奨学金制度・笑顔キラキラ事業
- 定住支援コーディネーター(職員男女2名)→Uターン者ケア
- 「都市から地方へ」を継続・強化する→農林業の活性化が重要
- A級の町をめざして→新たな就業スタイルの創造
- 今後の課題  
町内に食と農を中心とした起業支援センターを設立  
民間企業との協働による、さらなる邑南町のブランド力UP！  
一流の人材の育成→世のため、人のために役立つ人材の育成  
新たな就業スタイルの創造
- 100年先でも持続可能な町へ→理想郷に向けて
- 町全体が一つの家族としてサポート

## 【所感】

安芸高田市から夕方に邑南町に入り農家民泊。おかみさんから、地域の事、農家民泊を始めた経緯、中山間地が抱える課題等、色々な話を聞きました。

島根県で、子育てやUターン者の増加など、特長ある定住促進の施策を実行している自治体は、海士町、邑南町、美郷町などがあります。

A級グルメで町おこしは、住民アンケートで食べ物がいとの声から、地域おこし協力隊のメニューを農業と食にし、それによる定住と起業に結びついたのが、大きな要因だと思った。

20代～40代の女性が多く、その支援の為に保育所などの施設や、住居などの支援も関連して充実し、人口増へと転換した。

浜田市でもシングルペアレント定住促進事業等、全国から注目を浴びているが、その様な社会課題の解決につながる施策を一つ一つ打ち出していく事が、結果につながる事を邑南町の視察で思った。